

令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立海南高等学校 美里分校 学校長名：川久保 尚志

めざす学校像 育てたい生徒像	人の多様性を尊重し、その特性や良さを理解するとともに、自身の可能性を最大限に伸ばすため、自ら意欲的に学習活動に取り組む生徒を育てる。 また、学校・地域社会に関心を持ち、主体的に活動に参画するとともに、多様な人々と協力し、学校・地域社会の発展に貢献しようとする人材を育成する。
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 個別最適化した指導・支援を行うことにより、生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす。
	2 分かる授業や豊かな体験活動を通じて、意欲的に学習に取り組む態度を養う。
	3 地域での活動や交流を通して、自主自立の精神と、人との関わりを大切にする豊かな心を育む。

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適化した指導・支援を推進するため、定期的なアセスメントの実施と、その結果を情報共有できるシステムを構築するとともに、専門家や外部機関等とも連携した教育支援体制を整備する。 地域の教育資源を生かした特色ある授業や特別活動を充実させるため、積極的に地域住民や地元自治体、大学等、外部人材との連携を図る。 豊かな人間性と社会参画意識を身につけた人材を育成するため、キャリア教育の視点に立った系統的な教育課程や特別活動を計画する。 	達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B		概ね達成した。(60%以上)	
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	学校評価アンケートや外部評価の結果を、保護者、学校運営協議会及びホームページ上において公表するとともに、集計結果をもとに考察した学校の課題や改善策を提示する。	C	あまり十分でない。(40%以上)	
		D	不十分である。(40%未満)	

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					年 度 評 価 (令和 4年 3月24日 現在)		
重点目標					評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善方策
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標			
	<ul style="list-style-type: none"> 不登校経験や発達障害など、特別な支援を要する生徒が多数を占める。対応は個々の教員の経験や力量に任されているが、特性に応じた支援方法を全職員で共有する必要がある。 複雑な家庭環境や生育歴を持った生徒が在籍しており、家庭や関係機関等と連携しながら、基本的な生活習慣を確立する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なアセスメントの実施 全教職員による生徒情報の共有 個別最適化された支援計画 家庭との連携 関係機関等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> SC、SSWを交えたケース会議の実施 個別の支援計画の作成 全職員による生徒情報交換会の開催 保護者への連絡や情報提供、教育相談等の対応 関係機関等との協力体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ケース会議を定期的開催している 個別の支援計画を作成し適宜更新されている 個別最適化された支援計画を全職員で共有している 適宜、保護者と連絡等を行い、情報共有できている 関係機関から必要な情報や協力が得られている 	SC、SSWを含む全職員による生徒情報交換会を月1回程度開催し、生徒情報を共有した。また、全クラスでつなぎ愛シートの作成に取り組んだが、作成や共有の方法に課題を残した。保護者や関係機関と連携し、生徒指導や情報共有にであった。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒情報交換会の実施やつなぎ愛シートの共有を図ることによって、組織的に生徒・保護者の支援を行うという意識を醸成させる。 支援委員会の役割を明確にする 生徒情報交換会の実施 つなぎ愛シート等の活用 SC、SSWとの連携
2	<ul style="list-style-type: none"> 様々な学習歴や特性を持った生徒が多く、学習能力の差が顕著である。基礎学力の定着を図るため、一人ひとりの特性・能力に応じたきめ細やかな学習指導が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適化された学習指導 生徒が意欲的に学習に取り組むための工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 学び直し、グループ学習、TT指導、個別指導、補習の実施 資格試験(英検・漢検)、一斉テストの実施、ICT機器の活用、カリキュラム・時間割編成の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振者が減少している 生徒が学習活動に前向きに取り組んでいる 	学び直しやICT活用など工夫をしながら、個に応じた指導を行った。生徒は授業に前向きに取り組んでおり、満足度も高い。職員定数減により、習熟度別学習や選択科目の開講が困難になっている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力を客観的に把握するとともに、一人一人の学習課題を共有し、改善策を検討する。 また、職員数に応じたカリキュラムに再編成する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた様々な経験の積み重ねが少ない生徒が多い。地域の教育資源を活用した体験活動や多様な人々との交流を通じて、経験を豊かにし、適切なキャリア発達を促す必要がある。 進路意識が希薄で、進路決定が遅くなる傾向がある。系統的なキャリア教育を実践し、将来への展望を見いだせるよう指導を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源を活用した体験活動の充実 地域交流やボランティア活動を通じた地域活動への参画 系統的な進路ガイダンス等の実施 一人ひとりに応じた進路指導 	<ul style="list-style-type: none"> 新入生歓迎BBQ 生石山登山 地域交流文化祭 地域交流活動(サロン活動) 地域交流ゲートゴルフ みさと天文台連携授業 地域清掃 太鼓部演奏活動 放送部読み語りボランティア 進路ガイダンス・セミナー 外部講師による進路講演会 企業・学校見学会 個別進路相談 三者面談 職場見学、面接練習 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な世代の人たちと積極的に交流している 様々な活動に主体的に取り組んでいる 地域に興味・関心を持って活動に参加している 具体的な将来像をイメージしながら、主体的に取り組んでいる 進路希望や課題を学校・生徒・保護者が共有している 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により体験活動等が大幅に制限された。しかし、地域サロンでの高齢者との交流など、地域での活動に積極的に取り組んだ。 また、進路指導においても、ガイダンスや企業見学会など進路行事を着実に実施するとともに、3年生担任と進路指導部が連携し、一人一人の希望に応じた丁寧な進路指導を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域での体験活動や進路行事の着実な実施を目指す。それぞれの活動の目的を明確にし、生徒のキャリア発達につなげるとともに、キャリアパスポートを通じて、自己理解や進路に対する意識を高める。 また、地域連携を展開していくため、地元自治体や関係機関等との関係構築に努める。

学 校 関 係 者 評 価	
令和 4年 1月27日 実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○保護者、学校運営協議会委員による外部アンケートでは、多くの項目で「十分である」「ほぼ十分である」の肯定的な回答を得ており、本校の教育活動が理解されていると思われる。以下抜粋	
<ul style="list-style-type: none"> 他の学校にはない特色がある 「十分」91%、「ほぼ十分」9% 合計 100% 地域等の活動に対して協力的であると思いませんか。 「十分」91%、「ほぼ十分」9% 合計 100% わかりやすく充実した授業を行っている。 「十分」54%、「ほぼ十分」41% 合計 95% 進路に関する情報提供に努めていると思いませんか。 「十分」36%、「ほぼ十分」59% 合計 95% 	
○「学校の施設や設備について十分だと思いますか」「通学の費用は妥当だと思いますか」の項目は、例年否定的意見が多く評価が低い。	
<ul style="list-style-type: none"> 学校の施設や設備について十分だと思いますか。 「十分」23%、「ほぼ十分」55% 合計 78% 通学の費用は妥当だと思いますか。 「十分」27%、「ほぼ十分」36% 合計 63% 	